

SONODA VISION

2030
中長期計画



SONODA

捨 我 精 進

し ゃ が し ょ う じ ん

「捨我」とは、人を愛し自分の為すべきことに全力をつくすことです。

「精進」とは、幸福な世の中をつくるため勇気を持って挑戦することです。

すなわち、相手の身になって考え、誠実に行動し、仲間と協力して幸せな社会をつくるために努力することと解釈できます。

そこには、自己と他者の存在を認識し、互いの違いを認めあえる成熟した人間関係が生まれます。

園田学園の教育には、設立時からのこの精神が脈々と流れています。

私たちは、人が社会で生きてゆくうえでの理想である「他者への思いやりの実践」に勇敢、ひたむきであらねばならない。

大学理念 「大学の社会的存在意義」

「共創社会」を実現する

自立した人間を育成し、

他者と支えあえる

人口減少、少子高齢化、グローバル化、AIの発達等により、変化が激しく、予測困難な時代を迎えています。園田学園大学は、これまで築いてきた地域との信頼関係と連携を基盤として、性別や国籍、年齢等を問わず、多様なつながりを生み出す場となり、「共創社会」(co-creation)、すなわち「共に創る社会」の実現に貢献します。

共創社会の実現には、多様性や包摂性を基盤とした多分野・多職種の協働・連携により、社会課題の解決や新しい社会価値の創造に取り組むための力が求められます。園田学園大学ならではの「経験値教育」を深めるなかで、自己肯定感・効力感と他者を尊重する姿勢、必要な知識と知恵を育み、支え、支えられながら、複雑さを増す社会にあっても変化に対応して活躍できる人材を育成します。

目指す
人間像

社会的・精神的・職業的に自立している人

自分自身を大切にするとともに、社会のさまざまな人を尊重できる人

人を支え、また支えられながら、力強く、成長を続けられる人

1 教育

基本方針

第二の開学にあたり、学生や社会のニーズを踏まえた教育プログラムの充実を図る。
これまで培ってきた「経験値教育」を再構築し、学部横断的カリキュラムを強化する。

行動目標

- 1-1. 入学定員充足率100%を達成するとともに、入試制度や入学者の多様化を踏まえた高大接続、リメディアル教育の充実を図る。
- 1-2. 学修者本位の教育を実現するため、卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）にもとづく体系的な教育課程の編成とカリキュラム・マネジメントを徹底するとともに、適正に教員を配置する。
- 1-3. 卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）との関係性を明確にした学修成果の測定・分析を着実に実施し、一人ひとりの学生へのフィードバックと大学全体の教育の質向上につなげる。
- 1-4. 「経験値教育プログラム」を再構築し、「全員発揮型リーダーシップ」の開発プログラムを全学に導入するとともに、全学共通科目を再編する。
- 1-5. 上記の取組を推進するために必要なFD・SD研修（大学教員や職員の資質向上を目的とした研修）を適切に実施する。
- 1-6. 社会ニーズや学生募集の動向を踏まえ、2028年（第3期）以降の学部学科再編に向けた検討を進める。



2 学生支援

基本方針

教職協働により、学生の主体性を基本とした学びと学生生活を支える。共学化等による入学者の多様化を踏まえ、これまで以上に一人ひとりに寄り添う姿勢を大切にした総合的支援を推進する。

行動目標

- 2-1. 退学者ゼロの実現に向けて、必要に応じた休学者へのフォローアップを含め、寄り添い型の学生支援を推進する。
- 2-2. 学内行事やワークスタディ、インターンシップ等への参加促進、低年次からのキャリア支援を推進する。
- 2-3. 奨学金等による経済的支援を適切に実施するとともに、本学独自の奨学金については理念や方針にもとづき再構築する。



3 研究

基本方針 研究成果や専門知識を社会に還元・普及させることで共創社会の実現に寄与するため、地域や社会の要請に応じた研究と学術情報提供サービスの充実を図る。

行動目標 3-1. 図書館・近松研究所の活用を図る。
3-2. 研究業績の蓄積と公表、外部研究資金の獲得を促進し、研究活動を充実させる。
3-3. 研究倫理の遵守について適切な対応を行う。



4 社会連携

基本方針 地域・自治体・企業等との連携を強化するとともに、社会の要請に応じた特色あるセミナー等を実施していく。

行動目標 4-1. 産官学連携、多様な主体との連携を深め、経験値教育を支えるとともに、学生の活動が地域貢献につながることを目指す。
4-2. 時代の変化や社会のニーズを踏まえた学びを提供するため、生涯学習事業の再編を行う。



5 管理運営

基本方針 多様化する教育環境に対応しつつ、教育研究活動及び学生生活全般を支援するため、大学運営を支える教職員の業務遂行能力の向上に努めるとともに、財政基盤の安定に向けた積極的な取組を行う。

行動目標 5-1. 経営改善計画にもとづき、事業活動収支の均衡に向けた取組を着実に推進する。
5-2. DX化の推進等、効率的に業務に取り組める環境をつくる。
5-3. 目標達成に向けた組織のガバナンスとPDCAサイクルを確立するため、経営改善計画・中長期計画(SONODA VISION 2030)・内部質保証システム(大学基準)を一体的に管理・推進するとともに、人事考課における目標管理を適切に実施する。



学園のあゆみ

- 1938 ● 「捨我精進」を建学の精神に園田高等学校開校
- 1947 ● 園田学園中学校開校
- 1948 ● 園田学園高等学校開校
- 1953 ● 園田学園幼稚園開園
- 1963 ● 園田学園女子短期大学(家政科)開学
- 1966 ● 園田学園女子大学(文学部国文学科・英文学科)開学
- 1968 ● 短期大学に文科・幼児教育科開設
- 1979 ● 学園開放、公開講座開講
- 1980 ● オーストラリアのグリフィス大学(ブリスベン)と姉妹提携
- 1981 ● 大学附属 学が丘幼稚園(神戸市垂水区)開園
- 1983 ● 大岡山グリーンキャンパス(兵庫県豊岡市)開設
- 1985 ● ニュージーランドのクライストチャーチ教育大学と姉妹提携
- 1986 ● 南太平洋のヤップ島から外洋カヌー「ベサウ号」帆走で来日
(ベサウ号は本学で永久保存)
- 1987 ● フィジーの南太平洋大学と姉妹提携
- 1988 ● オーストラリアのブリスベン教育大学と姉妹提携
- 1989 ● 近松研究所を設置
- 1990 ● クイーンズランド工科大学(ブリスベン教育大学を吸収合併)
と姉妹提携



- 1993 ● ニュージーランドに、SCC(そのだクライストチャーチキャンパス)完成
短期大学家政科を生活文化学科に、幼児教育科を幼児教育学科に
名称変更
- 1994 ● 短期大学を園田学園女子大学短期大学部に名称変更
- 2002 ● 大学に人間健康学部(総合健康学科・食物栄養学科・幼児教育学科)開設
- 2006 ● 人間健康学部人間看護学科開設
- 2007 ● ニュージーランドのカンタベリー大学と学術交流協定調印
- 2008 ● 大学に人間教育学部児童教育学科開設
- 2015 ● 尼崎市と地域連携に関する包括協定を締結
- 2017 ● そのだ子育てステーションびびよ、そのだスポーツ栄養ナビステーション開設
- 2018 ● 園田学園創立80周年
- 2019 ● 園田学園幼稚園が園田学園女子大学附属の認定こども園(幼稚園型)に
- 2021 ● 大学に経営学部ビジネス学科開設
- 2025 ● 園田学園大学に名称変更
人間教育学部児童教育学科をこども学部こども学科に、食物栄養
学科を食マネジメント学科に名称変更
経営学部とこども学部を共学化
短期大学部を募集停止
- 2026 ● 食マネジメント学科を共学化予定
- 2028 ● 園田学園創立90周年
総合健康学科と人間看護学科を共学化し、完全共学化予定



長期ビジョン 2021年度→2030年度

第1期 2021-2024年度 / 第2期 2025-2027年度 / 第3期 2028-2030年度

